

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター センターだより

創刊号

発行責任者 ● NPO法人環境ネットワーク埼玉

発刊にあたり

ごあいさつ：センターだよりに期待する

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター長 上田 隆一



平成17年4月に埼玉県温暖化防止活動推進センターの指定を受け、センターでの業務活動が開始し、早1年が過ぎました。17年度は地球温暖化防止活動推進員の研修を始め、エコライフDAYなど地域での温暖化防止の普及啓発を推進してきました。また今年度6月には、センターの母体である、「NPO法人環境ネットワーク埼玉」の総会も無事終了することができました。このような成果は、埼玉県地球温暖化防止活動推進員を始め、NPOの会員の方々の絶大なるご協力の賜物であると心よりお礼申し上げます。



さて、このたび「センターだより」（仮称）を発刊することとなりました。埼玉県内で地球温暖化防止を広く推進するためには、より一層の情報提供が必要と思われます。「センターだより」は「情報と想いのキャッチボール」を大前提としており、情報が相互にやり取りできるようなボールの役割をしたいと思っています。“投げっぱなし”や“受けっぱなし”が無いよう、皆さま自身でボールを磨いてほしいと思います。是非様々な「耳寄り情報」、「熱き思い」あるいは「事業活動の提言」などお寄せ下さい。

ごあいさつ：センターに期待しています

埼玉県環境部温暖化対策課長 寺田 賢

センターだよりの創刊おめでとうございます。センターは、県とともに温暖化対策を推進していくパートナーとして、エコライフDAYの実践などライフスタイルの変革や事業者に対する環境マネジメントの支援などについて、大きく貢献されています。

今後も、県民・事業者等への温暖化対策に関する啓発活動や自主的な実践活動の支援等について中心的な役割を果たされることを大いに期待しています。



環境ネットワーク埼玉総会記念講演



「異常気象レポート2005」の概要報告

講師:気象庁 地球環境・海洋部 気象情報課 諸岡 浩子氏

昨年の10月に気象庁から公表された「異常気象レポート2005」をもとに、異常気象や地球温暖化について話がありました。講演の概要は以下のとおりです。

- 「異常気象」の定義は、①過去に経験した現象から大きく外れた現象、②社会的に影響の大きい気象災害、③人が一生の間に希にしか経験しない現象、としており、目安としては30年に1回程度、とのことです。

【異常気象と気候変化の実態】

- 世界・日本の気温は、十年から数十年周期で変動しながら長期的な傾向として次第に上昇しており、100年当たりの気温の上昇量は、それぞれ0.66℃、1.06℃です。
- 異常高温の出現頻度は1980年代後半以降に急速に増加し、1990年代以降は、過去100年になかった頻度で出現しています。一方、異常低温の出現頻度は減る傾向にあり、1990年代以降、異常低温はほとんど出現しなくなっています。
- 春の開花や芽吹きは3日～10日早まり、秋の紅葉は5日～最大15日遅くなっているなど、植物の季節現象に変化があらわれており、気温の上昇の影響を受けているとみられます。
- 世界の降水量の変動には長期的な傾向が見られませんが、日本の降水量は近年、年ごとの変動幅が大きくなっており、降水量の多い年と少ない年とがともにあられやすくなっています。
- 日降水量が100mm以上や200mm以上の大雨の出現数には、長期的にみて増加傾向にあります。最近30年間（1975～2004年）と20世紀初頭の30年間（1901～1930年）を比較すると、日降水量200mm以上（大雨警報の基準程度）の日数は約1.5倍の増加となっています。
- 日本の最深積雪（前年秋～該当年夏まででもっとも深くなったときの積雪の深さ）は、1962年以降、東日本の日本海側、西日本の日本海側で顕著な減少傾向がみられます。

【異常気象と気候変化の見通し】

- 気象庁の気候モデル（気候の状態を計算機上で再現したもの）を用いた予測では、二酸化炭素の人為的な排出量が比較的大きい場合の、約100年後（2100年頃）の気候は、現在（2000年頃）と比べて次のように変化するとの結果が得られました。
 - ・日本の年平均気温は、2～3℃（北海道の一部で4℃）程度上昇。夏季よりも冬季のほうが気温の上昇が大きい。
 - ・日本のほとんどの地域で、年降水量が増加。特に西日本での増加が大きく、多いところで20%程度の増加となっている。
- 最新の研究成果によると、地球温暖化が進むと台風などの熱帯低気圧の発生数は減るが、大型化する傾向がある。

【異常気象と地球温暖化】

- 異常気象と地球温暖化（温室効果ガスの排出など人為的な影響）の関連については、まだ十分に分かっている訳ではありません。現時点で明らかになっているのは、次の2点です。
 - ・世界や日本における長期的な気温の上昇は、地球温暖化の影響が現れている可能性が高い。
 - ・日本における大雨の出現数の長期的な増加傾向には、地球温暖化の影響が現れている可能性がある。
- なお、「異常気象レポート2005」は以下に全文が掲載されています。



http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/climate_change/



エコライフDAYを進めて温暖化を防止しよう!



今年の梅雨は、九州や四国地方では、一日に一ヶ月分の雨が降り、土砂崩れなど大きな被害を与えています。そして、今年の夏もとても暑い夏になっています。

2002年2月16日に京都議定書が発効され、日本は1990年時点より6%の二酸化炭素を削減することを世界に約束をしましたが、2004年には逆に8%増えています。特に家庭部門では31.4%増え、家庭への啓発活動が緊急の課題となっています。

エコライフDAYに参加することは、環境に配慮したライフスタイルに変えていくとともに、エネルギー出費も少なくなります。環境にも財布にも、とても有効な活動です。皆さん、今すぐこの活動に参加しませんか!

各地域 推進員の活動

熊谷市の地球温暖化防止活動推進員の活動報告

熊谷の環境を考える連絡協議会(熊環連) 高橋 孝子

熊環連の現在のメインの活動は、荒川のゴミ拾いとムサシトミヨの保護観察、水質調査、別府沼公園の整備観察、野鳥の森公園の管理、エコライフフェア参加など多岐にわたります。今年のエコライフ活動では24,073人の参加があり、温暖化防止活動も周知されつつあります。

熊環連は、便利さと引き換えに失ったものを取り戻し、次代の子ども達に引き継ぎたいと、出来るところから少しずつをモットーに、地味な環境保全活動を実践しています。



吉川市の地球温暖化防止活動推進員の活動報告

吉川市環境まちづくり委員会委員長 島崎 允行



家庭版ISO<エコチャレンジ吉川>を4月にスタートさせ、3ヶ月で4コース合計約2000名が実施、出前講座も6月には4校で実施(約850名の生徒に)、環境月間行事として6月2日から11日間パネル展示やエコグッズの紹介や販売、6月5日の環境の日には多くの体験講座を実施しました。

つづいて、夏休みには親子自然観察会や星の観察会、親子エコ料理教室、親子お買い物ガイド調査やマイバッグの利用調査等々、子供と一緒に活動を計画、秋の市民まつりでは再度<エコチャレンジ吉川>のキャンペーンと、吉川市の推進員3名力を合わせて、今後も市民の環境意識向上に役立ちたいと思います。

新座市の地球温暖化防止活動推進員の活動報告

推進員 荻原 洋志



新座市では、推進員30名の誕生を機に、初の試みとして、市と環境保全協力員が共催し、環境展を5月29日から5日間開催しました。多くの方に推進員の活動を知って頂き、中広い交流を図る事が出来ました。6月4日は、さがみはら環境まつりにパネル展示参加、7月30日は、和光市主催「かんきょう活動のロビー展」で、展示とパネルディスカッションに参加します。今後の取組として、エコライフDAY開催にあたり今年も市よりチェックシートの作成及び集計作業について協力要請があり、12月はエコプロダクツ2006において、新座市環境保全の取組を報告します。



NPO法人環境ネットワーク埼玉の総会が終了しました。

平成18年度の総会は、埼玉会館にて、正会員100名のうち出席56名（委任状23名含む）の参加を得て開催されました。

平成17年度事業報告概要及び会計報告

- ① 普及啓発相談事業では、☆エコライフDAYは16万人参加☆センターでの相談助言は3千人実施☆普及啓発資料の作成
☆三郷市での公共交通バスマップ作成
- ② 個人・団体支援交流促進事業は、☆環境フェスタSAITAMA2005 in 所沢で参加者2万名☆「環境に優しい交通」等の地域セミナー実施☆中小事業者むけ環境啓発セミナー実施☆中小事業者の相談助言活動実施☆「みんなの環境展」実施
- ③ 環境保全指導者養成は、☆推進員の基礎研修3回、専門研修2回実施☆推進員活動マニュアル作成☆有識者による推進員研修及びマニュアル作りの検討会実施
- ④ 調査研究、情報提供事業は、☆パネル3枚、センター事業のリーフレットの作成☆ホームページの管理・運営、メルマガの発行等を実施☆県内環境保護団体のアンケート調査実施

平成18年度事業計画と予算

- ① 普及啓発・相談助言、☆エコライフDAYは夏と冬に全県的に実施し、20万人以上参加を目標☆相談助言は事業者のみでなく、小中学校への出前講座を実施☆今年度も交通システムのモデル事業啓発を行う。☆地域セミナーと温暖化防止推進大会を開催する。
- ② 個人・団体の支援、交流・連携の促進、☆環境展の開催☆中小企業向け環境啓発セミナーの実施☆省エネ診断による事業所支援事業の実施☆環境保全を目指したネットワーク作り☆グリーン購入ネット埼玉の立ち上げ等
- ③ 指導者の育成、☆地域セミナー・ワークショップを5回開催し、推進員相互の交流を促進する☆推進員のステップアップ研修2回実施☆温暖化防止先進地区の研修会等の実施、3箇所☆エコクッキングの講習会実施☆推進員企画コンペを行い、自発的な活動を促進し、発表会を実施☆インターンを受け入れ、育成を図る。
- ④ 調査研究・情報提供、☆広報紙「センターニュース」を発行する年2回☆ホームページ・環境ネットワークプラザ等を運営する☆グリーン購入に取り組んでいる団体の活動状況調査を行う☆人と環境に優しい交通推進モデル事業を実施する。



NPO法人環境ネットワーク埼玉の会員になりませんか？

埼玉県の環境保全を推進するため一緒に活動していただける会員の方を募集します。

		(1) 正会員		(2) 賛助会員	
個人	1口	5,000円	個人	1口	2,000円
団体 (非営利)	1口	5,000円	団体 (非営利)	1口	2,000円
団体 (企業)	1口	50,000円	団体 (企業)	1口	10,000円

会費の振り込み先 郵便局 口座番号 00150-1-426815 (振込み手数料はご負担下さい)

尾瀬戸倉の森林保全を見学しました

今回NPO法人環境ネットワーク埼玉では、会員の皆さまと、地球温暖化防止対策の一つでもある森林吸収源について現地学習会を開催しました。

8月9日(水)台風7号が襲来する早朝、東京電力埼玉支店の協力をえて、東京電力が所有する尾瀬戸倉の森に総勢約40名で向かいました。

東京電力では、明治時代から尾瀬に水利権をもっており(前身の会社から引き継ぎ)、尾瀬の7割の面積を有し、戦後はカラマツを主体に植林してきました。平成9年からは、元の広葉樹の森に戻すため、全国のボランティアの力で毎年25千本の植林を実施しています。今年で10年目を迎え、合計25千本となりました。今回の見学は、今年度植林した、ブナ、ミズナラ、トチノキの混合植林と10年前に植林したブナの生育状況を見学しました。10年前に植林した苗木でも、目の高さで直径約5cm、高さ約2.0mと想像より生長が遅く、ブナの生長には時間がかかるということがよく分かりました。また、ブナが独自で生長できるまでは、下草刈りが必要であり、多くの人の力が必要だと実感しました。

今回は尾瀬の湿原ではなく、尾瀬戸倉の森林保全を見学させていただき、企業の地道な努力を知ることができました。今後もこのような社会貢献活動を継続的に実施してほしいと願います。

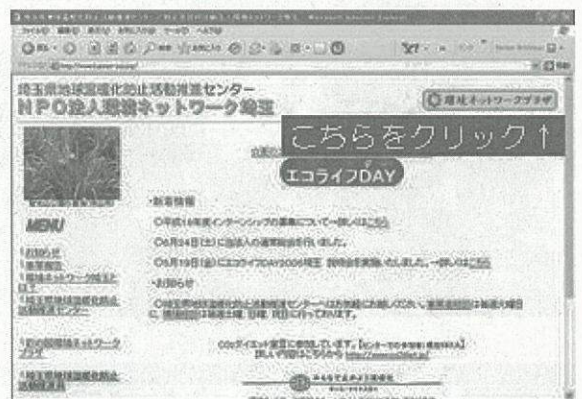


ホームページについて (<http://www.kannet-sai.org/>)

当センターはホームページを開設しております。その中にある「環境ネットワークプラザ」には、埼玉県内を始めとするイベント情報や環境保全団体名簿、協働や助成金の情報を掲載しております。

また、こちらは交流スペースとなっておりますので、情報、事例など、どんなに小さいことでも構いませんので、どしどしお寄せください。

連絡先はinfo@kannet-sai.orgまで



編集・発行

発行日 2006年8月10日

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター/特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉

さいたま市大宮区桜木町1-7-5 大宮ソニックシティビル30階

TEL 048-649-8087, FAX 048-649-8088 <http://www.kannet-sai.org/>

開館日・時間 平日、土日、祝日 午前10時~午後6時(水曜日休館)

場合によっては臨時休館日があります。情報やお知らせ、是非お寄せ下さい。